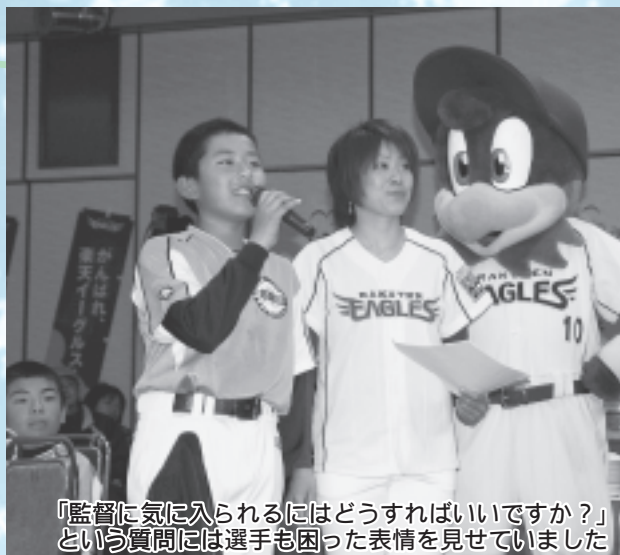


楽天イーグルスをみんなで応援しよう！

4月25日(土)午後6時から、高野会館を会場に「楽天イーグルス南三陸町応援協議会発足記念交流会」が開催され、町内のスポーツ少年野球チームの子どもたちや球団を応援しているファンの皆さんなど約130人が参加し、楽天イーグルスの監督や選手との交流を深めました。

この日予定されていたイースタンリーグ公式戦は、残念ながら雨天のため中止となりましたが、交流会には松井監督をはじめ、平石選手、塩川選手、井野選手そして球団の人気マスコットである「クラッチ」も参加し、子どもたちによる質問コーナーや楽天グッズが当たる抽選会など会場が一体となった楽しい交流会となりました。

応援協議会発起人の小坂克己さん(⓪大森)は、「設立当時の熱心なファンであり、当町に応援協議会が発足することは、とてもうれしく思います。みんなで力を合わせ、全力で応援したいと思います。」と、応援協議会発足の意気込みを話しました。



「監督に気に入られるにはどうすればいいですか？」という質問には選手も困った表情を見せていました



8万9千人が訪れた潮騒まつり

恒例となったゴールデンウィークのイベント

5月3日(日)から5日(火)の3日間、神割崎キャンプ場のイベント広場を会場に「第16回南三陸潮騒まつり」が開催されました。会場にはたくさんの出店が並び、新鮮な魚介類などを炭火焼きにした香ばしいにおいが充満し、大勢のお客さんが旬の味に舌鼓をうちました。

また、同期間中は歌津の魚竜館で「うに井フェア」が開催され、1杯1,000円のうに井が先着800名に販売されました。毎年長蛇の列ができるほど人気となったうに井フェアですが、今年も初日から大盛況。800食限定としていたところ、瞬間に売り切れ、特別に1,200食を販売したそうです。



お目当てのうに井に笑顔を見せるお客さん

新緑に包まれ春を満喫

5月2日(土)、「春のふるさと探訪会」が開催され、20人の参加者が保呂羽山に登りました。

教育委員会では、町民の皆さんが自然に親しみながら、地域の歴史・文化を再発見することなどを目的に、春と秋の年2回、ふるさと探訪会を開催しています。

今回は、自然と親しむ会の後藤一磨さんと鈴木卓也さんがガイドを務め、保呂羽山に自生する草木や山に伝わる伝説などの説明を聞きながら頂上を目指しました。昼食時間は、頂上から志津川湾の島々を見下ろす絶景のなか、山菜の天ぷらやお吸い物など、さまざまな旬の料理が提供され、参加した皆さんは心も体も充実した1日になったようでした。



自然と歴史を勉強しながらの楽しい登山

最大高低差100メートルのさわやか難コース

5月10日(日)、田東山の山頂付近を会場に「第15回たつがねMTB大会」が開催され、小学3年生の子どもをはじめ県内外から104名のマウンテンバイク愛好者がエントリーしました。

つつがねが咲くさわやかな特設コースですが、最大高低差が100メートルもある過酷なコースとなっており、ゴールした瞬間は、皆さん汗びっしょりで疲れ果てた様子でした。沿道からは「がんばれー」という声援がかけられ、白熱したレースが繰り広げられました。



起伏に富んだコースに大勢のライダーが挑戦しました

11年ぶりに行われた神輿渡御

みこしとぎょう

4月19日(日)、戸倉神社の春の祭礼が行われ、大漁や豊作または家内安全などを祈願しました。この祭礼は、戸倉神社の氏子である津の宮・波伝谷・在郷・水戸辺の4地区からなる「四ヶ字」が3年に1度執り行っているものです。しかし、祭日の1週間以内に4地区のなかで不幸があったり雨が降った場合、神輿渡御は翌年に延期するとされており、今年には実に11年ぶりの神輿渡御となりました。

当日の朝、戸倉神社での神事を終え戸倉漁協の裏手に移動し、神輿に海水をかけて清める「海潮払い」を行ったあと、天狗の面を付けた猿田彦役を先頭に約70人の四ヶ字の一行が4地区を渡御しました。



約8時間かけて4地区を練り歩きました



子どもたちは、しろうおすくいに夢中!

雨にも負けず開催 ~「つつじまつり」と「しろうおまつり」~

5月17日(日)、田東山と伊里前商店街を会場に「第31回田東山つつじまつり」と「第1回しろうおまつり」が開催されました。

この日は、あいにくの雨で田東山山頂付近は視界が悪いため、ヨサコイ演舞や魚竜太鼓を中止し、野点の会場を歌津公民館に変更するなど、プログラムの内容を一部変更して実施しましたが、しろうおまつりの会場となった伊里前商店街では、しろうおのおどり食などの珍しいイベントが催され、大勢のお客さんと賑わいました。

特製のつゆに、生きたままのしろうおを入れて食べるおどり食。ピチピチとコップの中で元気に泳ぐしろうおに、初めはためらうお客さんですが、一気に口の中へ流し込み、「不思議な感じ」と、貴重な体験に笑顔を見せていました。



長い間本当にご苦労様でした

長年にわたる行政相談活動に感謝状

4月21日(火)、役場町長室において、昭和62年4月から本年3月までの23年間、町の行政相談委員としてご尽力された小坂曾代子さん(⓪大森)に総務大臣からの感謝状が贈られました。行政相談委員は、行政等の仕事に関する困りごとや要望などの相談業務に応じており、年間100件程度の相談が持ち寄られています。

小坂さんは、「相談に来られる方は真剣に悩んでおり、すぐに力になれるように、一步踏み出して相談に応じていました。事案が解決し、相談者が安堵の表情を見せてくれたときが一番うれしかったです。」と、これまでの感想を話しました。